

# 長期宿泊体験活動実践校における取組事例の概要

## I. ふるさと体験学習（郷土で学び、交流し、泊まるキャリア教育）

本活動の実践校名	胎内市立中条小学校（新潟県胎内市）	全児童 448 人（共学）
----------	-------------------	---------------

### 1. 本活動の日程・対象・目的

日程	平成 28 年 9 月 12 日（月）～9 月 16 日（金）4 泊 5 日		参加対象	5 年生・78 人
行程	1 日目	本校→新潟製粉工場→体験施設→黒川郷土文化伝習館→集団宿泊		
	2 日目	米粉クッキング→各農泊（体験・宿泊）		
	3 日目	各農泊→胎内の食体験→自然散策→天体観測・集団宿泊		
	4 日目	ブドウ狩り→胎内市の農業・特産品の講話→キャンプファイヤー・集団宿泊		
	5 日目	野外炊さん→本校		
目的・目標	<p><b>【活動目的】</b> 胎内市教育委員会では、「教育は人をつくり、地域をつくる崇高な営み」を教育理念として掲げ、「ふるさとを学び、ふるさとをつくる教育」の推進を図るため、市内小学校 5 年生全員を対象とした「ふるさと体験学習」を実施している。</p> <p><b>【活動目標(ねらい)】</b></p> <p>①胎内市の自然、歴史、文化、産業等を活用する体験活動を通して、「ふるさと胎内市のよさ」を再発見し、地域を愛する心を育む。（郷土への愛着＜郷土愛＞）</p> <p>②自分達が住む胎内市での農家泊での地域の人々との交流を通して、主体的にコミュニケーションをとろうとする能力を培う。（人間関係形成・社会形成能力＜かかわる力＞）</p> <p>③集団生活で互いに協力したり、自分の役割を責任をもって取り組んだりして、友達や自分のよさに気付き、互いに認め合う人間関係を築く。（自己理解・自己管理能力＜見つめる力＞）</p> <p>④米粉や市の特産品等の開発に尽力する人々の思いや願いに触れる活動を通して、働くことの大切さ、苦勞、喜びを知るとともに、その生き方や考え方について自分の考えをもつ。（キャリアプランニング能力＜夢おこす力＞）</p>			
	経緯	平成 19 年度	胎内市で胎内型ツーリズム推進協議会 301 人会を設立	
	平成 20 年度	胎内市内の小学校 5 年生全員を対象とした「ふるさと体験学習」を実施		
	平成 21 年度	豊かな体験活動推進事業のモデル校として市内小学校 3 校(中条小、黒川小、鼓岡小)が 4 泊 5 日の体験学習を実施する		

### 2. 本活動の宿泊形態と選択理由（教育的なねらい）

	宿泊形態	宿泊場所の選択理由（教育的なねらい）
1・3・4 日目	胎内アウレックス館(集団泊)	集団生活で互いに協力したり、自分の役割を、責任をもって取り組んだりして、友達や自分のよさに気付き、互いに認め合う人間関係を築く。
2 日目	農家泊(分散泊)	自分達が住む胎内市での農家泊での地域の人々との交流を通して、主体的にコミュニケーションをとろうとする能力を培う。

### 3. 事前・事後の学習活動の概要

	学習活動名	教育的なねらい	教科等名	時間
事前学習	お家の人に、はがきを書こう	農泊での活動やその感想を相手意識をもってまとめるために、どのような内容がよいのかを考える。	国語	1
	農業のさかんな地域をたずねて	農業に携わる方々が、どのような思いや願いをもっているかを知り、農業に対する関心を高める。	社会	3
	農家の方に聞いてみよう	農業をしていくうえで、大切なことや疑問、やりがいなどの質問事項を考え、友達とのやり取りを通して、質問内容の精度を高める。	社会 総合	2
	これからの食料生産を考えよう	それぞれの食品の自給率と、日本の食料自給率を関係付けながら考え、これからの生活を見直したり、できることを考えたりする。	社会	2
	米粉ってなんだろう	米粉と小麦粉と比較したり、食料自給率と関係付けたりしながら、胎内市の特産品である米粉について理解を深める。	総合	4
	善悪の判断、自律、自由と責任	主人公のとした行動が、友達が体調を崩す原因となったことを考え、自分の行動を律する気持ちを高める。	道徳	1
	礼儀	「我が家のルール」を交流することを通して、それぞれの家庭にはさまざまなルールやきまりがあることに気づき、農泊先でどのように過ごしたらよいかを考える。	道徳	1
	役割分担しよう	5日間の概要の説明を聞き、5日間のめあてを決め、自分の役割を自覚する。	総合	2
	自分にできることを考えよう	支援学級担任からの話を聞き、みんなが気持ちよく、楽しく過ごすためにはどうした良いのかを考え、自分の役割を自覚し、友達との接し方を考える。	学級 活動	1
米粉カレーの作り方を決めよう	我が家のカレーと米粉カレーの作り方や使う材料を比較しながら、米粉の可能性について考える。	家庭	3	
事後学習	農泊体験をまとめよう	2日間の農泊体験を振り返り、農家の方々の思いや工夫について班で協働してまとめて、発表する。	総合	3
	お家の人に、はがきを書こう	農泊での活動やその感想を相手意識をもってまとめるために、はがきを書く。	国語	1
	お礼の手紙を書こう	お世話になった方々の思いや願いを振り返り、自分の考えをまとめる。	国語	3
	活動をまとめよう	5日間の体験を振り返り、それぞれの活動班で協働してまとめて、発表する。それぞれの活動について情報交換し、活動内容を共有する。	総合	5
	米粉料理を作ってみよう	米粉を使った料理を調べ、手軽さや材料の求めやすさの視点で精査し、作ってみたい米粉料理を決め、班で協力して調理する。	家庭	3

#### 4. 本活動のスケジュール

時間	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
6時		起床	起床	起床	起床
7時		朝の集い		朝の集い	朝の集い
		朝食	朝食	朝食	朝食
8時	学校集合/出発式/出発		農泊先出発	班長会議	班長会議
9時	【共通体験1】 新潟製粉工場見学	【共通体験3】 浅野オリジナル米粉クッキング	胎内アウレッツ館到着	【共通体験5】 ぶどう収穫体験	部屋点検終了 野外炊さん全体説明/ キャンプ場へ移動
10時	胎内アウレッツ館到着/入館式		※保護者による荷物交換		【共通体験8】 野外炊さん (米粉カレー)
	【共通体験2】 米粉クッキング(パスタ)		【テーマ別体験2】 胎内の食 ●米粉ちぢみづくり ●米粉シチューづくり ●米粉ピザづくり	昼食	
11時	米粉クッキング(パスタ)	昼食	昼食		昼食
12時	昼食(パスタ)	農泊の説明			
13時	胎内アウレッツ館出発		【テーマ別体験3】 胎内市の自然 ●奥胎内ブナ林散策コース ●胎内平周辺散策コース ●夏井周辺散策コース	【共通体験6】 胎内市特産品学習 課題別体験のまとめ	片付け キャンプ場出発
	【テーマ別体験1】 歴史/黒川郷土文化伝習館 ●勾玉作り/縄文衣装体験 ●石器作り/弓矢/旧街道探検 ●火起こし/縄文クッキー作り	胎内アウレッツ館出発 農泊先到着 【農村生活体験】			別れの集い/胎内アウレッツ館出発
14時			テーマ別体験の整理		学校着 解散式
15時					
16時	胎内アウレッツ館着 活動のまとめ				
17時	夕食		夕食	夕食	
18時	班長会議	夕食	班長会議	班長会議	
19時	入浴 反省会・健康観察		【共通体験4】 天体観測	【共通体験7】 キャンプファイヤー	
20時	次の日の活動準備		入浴 反省会・健康観察 次の日の活動準備	入浴 反省会・健康観察 次の日の活動準備	
21時					
22時	就寝	就寝	就寝	就寝	
宿泊泊先	胎内アウレッツ館に 集団宿泊	胎内市内農家に分宿	胎内アウレッツ館に 集団宿泊	胎内アウレッツ館に 集団宿泊	

## 6. 引率者

- ・校長、教頭、主幹教諭、教務、5学年担任（1組担任、2組担任、副任）
- ・級外職員（生活指導主任、学習指導教員）
- ・支援担任
- ・養護教諭等

	9月12日(月)	9月13日(火)	9月14日(水)	9月15日(木)	9月16日(金)
日中	校長 5学年担任3名 支援担任1名 級外1名	教頭 5学年担任3名 支援担任2名	校長 教務 5学年担任3名 級外2名 支援担任1名 養護教諭1名	教頭 5学年担任3名 支援担任1名 級外1名	校長 主幹教諭 5学年担任3名 支援担任2名
宿泊	教頭 5学年担任3名 支援担任2名 養護教諭1名	校長 5学年担任1名 支援担任1名 級外1名	教頭 教務 5学年担任2名 支援担任2名 級外1名 養護教諭1名	校長 主幹教諭 5学年担任3名 支援担任2名 養護教諭	

## 7. 教員の負担軽減策

①教員間の役割分担 ・分担を早めに明示する。 ・夏休みを利用し準備を行う。
②指導者・指導補助員の確保 ・級外職員を配置して、行く人帰る人を予め決めておく。
③本活動用の教材の活用 ・DVD、写真データ等の活用
④過去の資料・データの活用 ・DVD、写真データ等の活用
⑤現地コーディネートの依頼 ・胎内市の受入地域協議会に依頼する。
⑥旅行会社への手配の委託 ・バス会社へは早めに見積もりをとる。

## 8. 現地コーディネーター（団体・宿泊体験施設等）に期待する主な役割（実施前）

①受入体制等に関する情報提供 (パンフレット、CD、DVD等の媒体の提供、ホームページでの公開)
②担当教員からの相談等に随時対応できる窓口体制 (コーディネーターの配置)
③現地で利用を検討している施設・サービスの経費の見積額の提示
④本活動の計画策定の協力 ・既存の体験メニューの紹介 ・学校の目的・目標に応じた体験プログラム等の提案
⑤本活動に係る現地手配（受入地域内の一括調整） ・現地の食事・宿泊の予約 ・指導者・指導補助員の紹介・確保 ・体験プログラムの手配 ・体験場所・施設・道具等の手配 ・荒天時等の代替活動の用意 ・地域内移動手段の紹介・手配 ・現地の安全・衛生管理体制の構築 ・急病人や災害等の発生時に対応できる現地の関係機関等による緊急連絡体制の構築
⑥下見の協力（地域内の案内等）
⑦アレルギー等を持つ児童・生徒の健康・身体面の配慮
⑧発達障害、不登校、引きこもりなどの様々な困難を抱える児童・生徒への配慮 ・現地の指導者等が各児童の特性に配慮できるように手配すること
⑨保護者説明の協力
⑩事故発生時の損害賠償の責任能力 (損害賠償責任保険の加入)
⑪事前学習の協力
⑫本活動期間中の教員のサポート
⑬現地費用の一括精算 (支払手数の軽減)
⑭事後学習の協力

### 【長期宿泊体験活動・実施後の担当教員の意見】

#### 1. “長期の活動”だからこそ“仕組めたこと”は何ですか？

- ・学校内ではなかなかできない胎内市の特産品、自然、地域、歴史等々を目の当たりにし、さまざまな体験をゆっくり、じっくり学習することで、「ふるさと胎内」の良さを実感できるプログラムになった。
- ・体験後、まとめをする時間を確保することで、学びを確かなものになった。
- ・宿泊や共同作業を活動に取り入れることにより、児童の中に協力することの大切さ、他者を思いやる心を育めた。

2. “長期の活動”だからこそ“達成できたこと”は何ですか？

(3 托回答：はい、いいえ、どちらでもない)

①自主性を促せた：はい
短期の活動だと反省だけで終わってしまうが、長期の活動であれば反省を活かし、すぐ次の活動につなげることができる。子供達は活動を繰り返すことで、自主性を身に付けていくことができた。
②心の成長や生徒同士の結びつきを促せた：はい
課題別の体験学習で「誰とでも活動できること」を育成できた。長期の活動の中で、農泊というひとつの壁を乗り越えた充実感により、その後の集団活動にも弾みが付き、何事も積極的に協力する姿勢が見られるようになった。
③学習活動を多角的に組むことができた：はい
事前・事後の授業や活動にも容易に胎内市の特産品、自然、地域、歴史等をイメージすることができるようになった。長期の活動により、しっかり体験できた成果と考える。
④ゆとりのある計画を組むことができた：はい
午前1活動、午後1活動といった、学校ではなかなか取ることのできない、ゆったりとした学習スケジュールにより、しっかりとした体験ができた。また、体験後すぐにまとめる時間を確保したことで「学び」を確かなものにできた。
⑤学びの深化が図られた：はい
地域の産業や歴史など、いくつかの授業においても、体験活動の経験を取り入れたりすることができた。またグループでの学習にも協調性が見られる等、積極性も感じられる。
⑥地域や社会との結びつきや貢献が図られた：はい
受入農家や課題別学習でお世話した方々は、地域の子供達をはぐくむ活動に参加できていることに充実感を得ている様子である。子供達もスーパーなどでお世話になった方々と挨拶を交わす場面もあり、互いに地域内の交流につながっている。

3. 受入側の対応によって本活動における課題解決に貢献しましたか？（複数回答可）

回答欄	回答欄
①活動準備段階での教員負担の軽減につながった（活動内容の提案・調整・手配等）	○
②活動実施段階での教員負担の軽減につながった（体験・宿泊・食事の委託等）	○
③授業時数の確保につながった（教科等に応じた活動内容の調整等）	
④安全衛生面の確保につながった（アレルギー対応、緊急連絡体制等）	○
⑤予算の確保につながった（受入側による負担、国等の事業の紹介等）	○
⑥金銭面での負担軽減につながった（受入手配に係る見積等）	○
⑦保護者の理解促進につながった（パンフレット・資料等の提供、説明会での解説等）	○
⑧指導実施につながった（体験指導者、農林漁家泊先の手配等）	○
⑨教育的効果の発現につながった（活動内容の提案・調整・手配・指導等）	○
⑩特にない	

## II. 兵庫県自然学校（県内公立小学校で進める自然学校）

本活動の実践校名	小野市立小野小学校（兵庫県小野市）	全児童数 661 人（共学）
----------	-------------------	----------------

### 1. 本活動の日程・対象・目的

日程	平成 28 年 10 月 3 日（月）～10 月 7 日（金）4 泊 5 日	参加対象	5 年生・97 人
行程	1 日目	本校→竹田城跡登山→オリエンテーリング→星空観察→森・木の学習→集団宿泊	
	2 日目	倒木→作品作り→野外炊事の薪拾い→スタンプ練習→家族への手紙→集団宿泊	
	3 日目	自然クラフト→木の学習のまとめ→スタンプ練習→集団宿泊	
	4 日目	火起こし体験・野外炊事→スタンプ練習→キャンプファイヤー（スタンプ）→集団宿泊	
	5 日目	植樹→本校	
目標	<p>【学年目標：「挑戦」】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山での体験を通して、自然の良さや厳しさを肌で感じ取り、自然を愛する心を育てる。</li> <li>・仲間と力を合わせて行う様々な活動を通して、自己への挑戦、仲間と協力して挑戦する姿勢を育み、規律を守り、協力する態度を身につける。</li> <li>・4 泊 5 日の体験活動を通して、仲間や家族の大切さに気付き、人を思いやる心を育てる。</li> <li>・私達の身近にある自然、とりわけ「木」をテーマに、その命や活用について体感する機会を作り、将来の環境保全、災害対策、生活との関わりについて各々が目を向け、自然との共生を考えるものにする。</li> </ul>		
経緯	<p>【兵庫県の体験教育】</p> <p>「自立」にむけ、自己認識・自尊感情を高め、学ぶ意欲や成長する意欲を奮起させ、また、人間としての在り方生き方を考え、社会の一員としての自覚を深めるため、子供の成長過程を踏まえ、それぞれの年代で体験活動を充実させている。</p>		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>小 3（環境体験事業）            小 5（自然学校）            中 1（わくわくオーケストラ）            中 2（トライやる・ウィーク）            高等学校（インターシップ）</p> </div> <p>兵庫県自然学校は県内全公立小学校で 5 年生を対象に実施している。</p> <p>本校 5 年生はとても仲がよい。学級の仲間や学年の仲間困った事があると、見返りを求めず手助けをすることができる。しかしながら、一人で物事を進めることや自発的に物事を進めることにはが苦手な児童が多く、自己決定や決断を行うことは不得手である。また、未知の体験に対しての抵抗感がある児童も多い。</p> <p>そういった状況を踏まえ、今年度の学年目標は「挑戦」としている。この自然学校を通して、自分（自分達）の問題を自分（自分達）で解決していく、決定していく力を育ててほしいと考えた。そして、親元を離れて生活することで、普段あたりまえのようにされていることの大切さに気づくことや自然の中に身を置くことで自然の不思議や大切さ、生活との関わり、命を体で感じ取ってほしいと考えた。</p>		

## 2. 本活動の宿泊形態と選択理由（教育的なねらい）

	宿泊形態	選択理由
1～4 日目	生活棟に 学級ごと に宿泊 (集団泊)	兵庫県自然学校では宿泊施設の選択は学校ごとに行うことになっている。 ※県内各校の選択状況：県立施設、市の関連施設、民宿等を利用している。
		本校は県立施設である「南但馬自然学校」を選択した。以下の環境が本活動を実施する上で最適な場所であると判断した。 ※朝来群山県立自然公園の一角にある、「自然学校」のための施設であり、クラスごとに宿泊できる生活棟や、雨の日でも野外活動ができる大屋根広場などがあり、子供達の自立心や思いやりの心が育むことができる施設環境がある。
		※豊かな緑と自然に恵まれた環境は、子供達の野生味を呼び起こし、生き生きとした活動が期待できる。
		※施設の周辺には、粟鹿山や青倉山、桜の名所で有名な立雲峡などがあり、全国屈指の山城遺跡である竹田城跡、但馬五社のひとつである粟鹿神社、地域の生活を支えてきた農耕具などを展示した郷土資料館など、歴史を伝える文化財も多くある。また、子供達の「挑戦」を育むためには、
		学校近くではなく、環境の違った場所が必要であると考えた。少し遠くを選ぶことで、私としては「自分達でやっていくんだ」というメッセージを与えている。

## 3. 事前・事後の学習活動の概要

	学習活動名	教育的なねらい	教科等名	時間
事前 学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活や社会問題と木の関係について調べる</li> <li>学年活動（自然学校に向けて）</li> <li>トーチ棒作り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然学校プレゼンテーション</li> <li>自然との関係を日常生活や社会との関わりに照らし合わせ、課題を考えさせる。</li> <li>集団生活を行う上での役割と責任を考えさせ、主体的に参加できるように考えさせる（班、役割、目標決め）。</li> </ul>	特別活動	8h
事後 学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然学校の発表会</li> <li>体験をふまえて生活や社会問題と木の関係についてまとめる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然体験プログラムで学んだことをふり返ることにより、自分の変化に気づき、自尊感情を高める。</li> <li>自然との関係を日常生活や社会との関わりに照らし合わせ、課題の解決のステップを考えさせる。</li> </ul>	特別活動	9h

#### 4. 本活動のスケジュール

時間	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
6時		起床	起床	起床	起床
7時		朝の集い	朝の集い	朝の集い	朝の集い
		朝食	朝食	朝食	朝食
8時	集合・出発 出発式	木の倒木	火起こし体験 野外炊事	自然クラフト (個人作品作り)	大そうじ 荷物の移動
9時	移動(バス)				植樹
10時					
11時	竹田城跡登山				
12時	昼食	昼食		昼食	昼食
13時	竹田城跡下山	クラスの作品作り	自然散策	学習のまとめ	閉校式
14時	開校式 「南但馬自然学校」 (兵庫県朝来市)				移動(バス)
15時	施設 オリエンテー リング				
16時		フリータイム	スタント練習	スタント練習	到着式
17時	入浴	入浴	入浴	入浴	
18時	夕食	夕食	夕食	夕食	
19時	星空観察 (天体観測)	スタント練習	ナイトハイク	キャンプ ファイヤー (スタント活動 を含む)	
20時	森、木に ついての学習	家族への手紙	フリータイム		
21時 ～	ふり返り 就寝	ふり返り 就寝	ふり返り 就寝	ふり返り 就寝	
宿泊 泊先	南但馬自然学校 (兵庫県朝来市)	南但馬自然学校 (兵庫県朝来市)	南但馬自然学校 (兵庫県朝来市)	南但馬自然学校 (兵庫県朝来市)	

## 5. 人的な実施体制

教員	9名（担任、担任以外の教員）			
教員以外の同行者	指導員	役割	プログラムごとに指導者、指導補助者	
		募集方法	現地による手配	
		費用負担	学校による事業費	
	指導補助員	主な役割	主に児童による活動の補助（班活動でのリーダー的役目） ・指導補助員は1クラス1名程度つける。 ・指導者の指示に従う。	
		募集方法	学校から知り合い等をつたって直接依頼する。 ※教育実習に来た学生等に依頼 （人柄を知っている人に依頼したいため）	
		費用負担	学校による事業費 （謝金：食費込みで5日間10万円）	
	看護師	募集方法	学校から知り合い等をつたって直接依頼した。	
		費用負担	学校による事業費	

## 6. 教員の負担軽減策

①教員間の役割分担
・プログラムごとに主担当を決めて分担する。 ・担任以外の教員の中から自然学校に関わる教員を決めて、日程を調整する。
②指導者・指導補助員の確保
③本活動用の教材の活用
④過去の資料・データの活用
⑤現地コーディネートの依頼（依頼先：現地の宿泊体験施設）
⑥旅行会社への手配の委託
⑦その他
・兵庫県自然学校では県教育委員会から本活動の経費に充てられる予算を県内の市町に交付。 ※学校の規模（小学校5年生のクラス数）に応じて交付金を交付している。 ※当該小学校の本活動予算額：140万円

## 7. 現地コーディネーター（団体・宿泊体験施設等）に期待する主な役割（実施前）

①受入体制等に関する情報提供 （パンフレット、CD、DVD等の媒体の提供、ホームページでの公開）
②担当教員からの相談等に随時対応できる窓口体制 （コーディネーターの配置）
③現地で利用を検討している施設・サービスの経費の見積額の提示
④本活動の計画策定の協力 ・既存の体験メニューの紹介 ・学校の目的・目標に応じた体験プログラム等の提案
⑤本活動に係る現地手配（受入地域内の一括調整） ・現地の食事・宿泊の予約 ・指導者・指導補助員の紹介・確保 ・看護師の紹介・確保 ・体験プログラムの手配 ・体験場所・施設・道具等の手配 ・荒天時等の代替活動の用意 ・地域内移動手段の紹介・手配 ・現地の安全・衛生管理体制の構築 ・現地の関係機関等による緊急連絡体制（急病人や災害等の発生時の対応）
⑥下見の協力 （地域内の案内等）
⑦アレルギー等を持つ児童・生徒の健康・身体面の配慮 ・現地の指導者等が各児童の特性に配慮できるように手配すること ・食事などの手配
⑧発達障害、不登校、引きこもりなどの様々な困難を抱える児童・生徒への配慮 ・現地の指導者等が各児童の特性に配慮できるように手配すること
⑨保護者説明の協力 （パンフレット等の資料の提供）
⑩事故発生時の損害賠償の責任能力 （損害賠償責任保険の加入）
⑪事前学習の協力 （地域資源等に関する情報提供）
⑫本活動期間中の教員のサポート ・各活動場所までの移動・案内（班別・クラス別活動の際） ・各活動場所からの緊急連絡の対応（班別・クラス別活動の際） ・現地の指導者等への指示・伝達
⑬現地費用の一括精算 （支払手数の軽減）
⑭事後学習の協力 ・現地で児童が参加した作品・収穫物・記録等の送付

【長期宿泊体験活動・実施後の担当教員の意見】

1. “長期の活動” だからこそ “仕組めたこと”は何ですか？

・話し合うこと。問題が起こった時に考え・答えを導き出す時間を児童達に十分に取ってあげることができた（木を運ぶときや係の振り返り、部屋の中など、色々な場面で話し合っていた）。
・集団生活の規律、約束。皆で生活するために必要なことの徹底することができた（時間管理、係などの責任、班で行動すること、相手を思うこと）。

2. “長期の活動” だからこそ “達成できたこと”は何ですか？

（3托回答：はい、いいえ、どちらでもない）

①自主性を促せた：はい
時間管理や次のプログラムを考えて、自分達で行動することが日に日にできるようになった。「～してもいいですか」や「～したほうがいいですか」と言っていたが「～しました」「～しようとおもいますがいいですか」という言い方に変わってきた。
②心の成長や生徒同士の結びつきを促せた：はい
一人ひとりの努力だけでなく、力を合わせることや、足りない部分を互いに補い合い、声をかけ合ったりすることが大切であると気づくことができた。竹田城登山での声かけや倒木を運ぶ作業、火起こし体験、野外炊事、キャンプファイヤーでのスタンプ練習などお互いに声をかけ合ったり、アドバイスし合ったりする姿があった。
③学習活動を多角的に組むことができた：はい
小野市では体験できない自然と触れることができた。見たことの無い草木や形がかわった枝など興味を持って触っていた。また、自分達だけで生活するという意識も高く、持ち物の整理や食事の準備後片付け、掃除など自分達の生活に責任を持って取り組むことができた。
④ゆとりのある計画を組むことができた：どちらでもない
途中、台風が来てプログラムを入れ替えたが、順調に進んだ。ただ、生活棟から集合場所まで距離があり、プログラム間の時間にゆとりがない時もあった。また、食事に時間がかかる児童などは食事後の時間のゆとりはなかった。
⑤学びの深化が図られた：はい
友だちの良いところや直してほしい所に目を向けていた児童もいた。力を合わせないといけない場面で言い合いも有り、話し合う事で解決策を自分達で導き出していた。いつも見ている友だちの面だけでなく、様々な面と触れる事で問題が起きたり、アドバイスを送ることができたり、手助けすることができた。
⑥地域や社会との結びつきや貢献が図られた：どちらでもない
南但馬地域の講師の先生に依頼をしてプログラムを行ったもので、地域の方々との関わりは今回のプログラムではなかった。

3. 受入側の対応によって本活動における課題解決に貢献しましたか？（複数回答可）

項目	回答欄
①活動準備段階での教員負担の軽減につながった（活動内容の提案・調整・手配等）	
②活動実施段階での教員負担の軽減につながった（体験・宿泊・食事の委託等）	○
③授業時数の確保につながった（教科等に応じた活動内容の調整等）	
④安全衛生面の確保につながった（アレルギー対応、緊急連絡体制等）	○
⑤予算の確保につながった（受入側による負担、国等の事業の紹介等）	○
⑥金銭面での負担軽減につながった（受入手配に係る見積等）	
⑦保護者の理解促進につながった（パンフレット・資料等の提供、説明会での解説等）	
⑧指導実施につながった（体験指導者、農林漁家泊先の手配等）	○
⑨教育的効果の発現につながった（活動内容の提案・調整・手配・指導等）	
⑩特にない	

### Ⅲ. セカンドスクール（自然体験・農業体験・訪問地の中学校との交流学习）

本活動の実践校名	武蔵野市立第五中学校（東京都武蔵野市）	全生徒数 241 人（共学）
----------	---------------------	----------------

#### 1. 本活動の日程・対象・目的

日程	平成 28 年 9 月 23 日（金）～9 月 27 日（火）4 泊 5 日	参加対象	1 年生・78 人
行程	1 日目	本校→大町市大町公園→塩の道→仁科台中学校→ホテル（宿泊）	
	2 日目	ホテル→白馬ジャンプ台→開村式→親海湿原環境保全課集う→各民宿（宿泊）	
	3 日目	各民宿→白馬駅→八方池登山→交流施設→各民宿（宿泊）	
	4 日目	各民宿→農村ふれあい体験→草鞋づくり（雨天）→各民宿（交流会・宿泊）	
	5 日目	各民宿→農村ふれあい体験→閉村式→本校	
目標	セカンドスクール目的「自然・友情・学び」 ①自然：自然に親しみ、ふれ合うことで自然を大切にする心を育てる。 ②友情：長期宿泊体験（集団生活や民泊）を通じて、自主的な規律の意識を高め、互いに助け合う認め合う人間関係を築く。 ③学び：自然体験、農業体験を通じて、自然、勤労などの大切さを学ぶ。 ：大町の街づくりに関する問題解決学習を行って市民性を育む。		
経緯	平成元年「自然と直接触れ合う機会の減少」「間接体験や疑似体験の増加」「子供同士の希薄な関係」「夢や希望が持てない」「基本的な生活習慣が身につけていない」といった子供達を取り巻く問題を解決するため、自然体験、社会体験、生活・文化体験等の様々な体験学習の機会として、長期宿泊体験学習「セカンドスクール」を構想する。 実施に当たっては「子供の心身への負担」「習い事や塾に通えない」「部活動への影響」「教育課程への位置付け」「教職員の確保や役割分担」「教員の負担」「活動場所、施設や設備の条件」「実施地との連携、協力」といった長期宿泊体験を実現するためにさまざまな課題に直面しながらも、学校、保護者、実施地の方々の理解や協力を得て充実・発展し 20 年を超える取り組みとなった。		

#### 2. 事前・事後の学習活動の概要

	教育的なねらい	教科等名	時間
事前学習	①大町のまちづくり ②武蔵野の良さ ・夏休みの宿題 ・自分達のまちの良さのプレゼンテーション ③受入地の大町市の方が上京して一緒に学習	総合的学習の時間	10 時間
事後学習	①ポスターセッション ②キャッチフレーズ ③大町市長からのビデオレター	総合的学習の時間	10 時間

### 3. 本活動のスケジュール

時間	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
6時		起床・検温	起床・検温	起床・検温	起床・検温
7時	集合・出発	朝食	朝食	朝食	朝食
8時	バス移動	退館式	電車・リフト移動	民宿発、田んぼ着 農村ふれあい体験	農村ふれあい体験
9時	バス移動	出発、白馬ジャンプ台	八方池登山	民宿ごとのプログラム	
10時	バス移動	白馬さのさか開村式			帰校準備
11時	大町公園動物園見学	民宿リエンテーション	下山	片付け	白馬ウイング閉村式
12時	昼食	環境保全活動説明 昼食	昼食	昼食	昼食
13時	塩の駅見学	源流、湿原環境保全活動	リフト移動	稲刈り体験	バス移動
14時	仁科台中学校合流				
15時			温泉入浴体験		
16時	ポスターセッション交流学習	片付け	民宿着	片付け	
17時	出発	民宿着、入浴 夕食準備	夕食準備	夕食準備、夕食	学校着解散式
18時	ホテル五龍館入館式	夕食 片付け	片付け	民宿交流	
19時	夕食 入浴	自由時間	民宿交流		
20時	自由時間			入浴	
21時～	班長会議 室長会議、消灯	班会議、消灯	班会議、消灯	班会議、消灯	
宿泊泊先	ホテル五龍館	民宿分泊	民宿分泊	民宿分泊	

#### 4. 人的な実施体制

教員		役職・役割別の人数	7名 校長、養護、教諭5名
教員	指導員	募集方法	学校による募集（方法：時間講師や卒業生、地域の人材）
		費用負担	教育委員会による補助
以外	看護師・保健師	募集方法	学校による募集（方法：武蔵野市に派遣要請）
		費用負担	教育委員会による補助

#### 5. 教員の負担軽減策

①教員間の役割分担
②指導者・指導補助員の確保
③本活動用の教材の活用
④過去の資料・データの活用
⑤現地コーディネートの依頼（依頼先：現地団体・宿泊体験施設等）
⑥旅行会社への手配の委託

#### 6. 現地コーディネーター（現地団体・宿泊体験施設等）に期待する主な役割（実施前）

①受入体制等に関する情報提供（受入協議会コーディネーターから提供）
②担当教員からの相談等に随時対応できる窓口体制（コーディネーターの配置）
③現地で利用を検討している施設・サービスの経費の見積額の提示 ・現地の施設・サービス毎の見積額の提示 ・現地の全活動の見積額の一括提示
④本活動の計画策定の協力 ・学校の目的・目標に応じた体験プログラム等の提案
⑤本活動に係る現地手配（受入地域内の一括調整） ・指導者・指導補助員の紹介・確保 ・看護師の紹介・確保
⑥下見の協力（受入協議会コーディネーターの全面協力）
⑦アレルギー等を持つ児童・生徒の健康・身体面の配慮
⑧発達障害、不登校、引きこもりなどの様々な困難を抱える児童・生徒への配慮 ・配慮ができる宿泊施設を手配
⑨保護者説明の協力 ・パンフレット等の資料の提供 ・保護者説明会での説明代行 ・プレゼンテーションをしてもらった。
⑩しおりの作成の協力（受入協議会コーディネーターより資料提供）
⑪事故発生時の損害賠償の責任能力（損害賠償責任保険の加入）
⑫事前学習の協力（受入側のコーディネーターの来訪）
⑬本活動期間中の教員による活動のサポート ・各活動場所までの移動・案内（班別・クラス別活動の際） ・各活動場所からの緊急連絡の対応（班別・クラス別活動の際） ・現地の指導者等への指示・伝達
⑭現地費用の一括精算（支払手数の軽減）
⑮事後学習の協力（受入側のコーディネーターの来訪）

【長期宿泊体験活動・実施後の担当教員の意見】

1. “長期の活動” だからこそ “仕組めたこと” は何ですか？

大町市エリアのみで、じっくりと自然・人・こと・ものと出会う体験を仕組めた。それゆえ、より深いつながりができた。

2. “長期の活動” だからこそ “達成できたこと” は何ですか？

(3托回答：はい、いいえ、どちらでもない)

①自主性を促せた：はい
自分達が動かなければ、何も始まらないことを実感させることができた。
②心の成長や生徒同士の結びつきを促せた：はい
学校生活では見えない部分が見えてきて、より親密な接し方がわかってきた。
③学習活動を多角的に組むことができた：はい
自然・人・こと・ものと出会う多様な体験を仕組めた。
④ゆとりのある計画を組むことができた：どちらともいえない
大町市エリア内だけで多様な活動を組むことができたが、1日目がタイトになったため。
⑤学びの深化が図られた：はい
・事前学習で武蔵野の良さや課題を調査した上で、宿泊体験活動にのぞんだ。 ・本活動で培った資質・能力が、2年生の鎌倉校外学習や3年生のポスターセッション（武蔵野市改造計画）につながり活かされるよう編成した。
⑥地域や社会との結びつきや貢献が図られた：はい
活動の多くが、大町市の住民や生徒との交流や自然保護活動にしていた。
⑦教員のリフレッシュや結びつきが図られた：はい
・農家民泊により、教員に精神的・肉体的余裕ができた。 ・教員の睡眠時間が確保できた。
⑧その他
大町市にして2年目なので、事前に1年生のポスターセッションを現2年生に聞いてもらい指導を受けた。そのため、プレゼン力が向上した。

3. 受入側の対応によって本活動における課題解決に貢献しましたか？ (複数回答可)

項目	回答欄
①活動準備段階での教員負担の軽減につながった (活動内容の提案・調整・手配等)	○
②活動実施段階での教員負担の軽減につながった (体験・宿泊・食事の委託等)	○
③授業時数の確保につながった (教科等に応じた活動内容の調整等)	○
④安全衛生面の確保につながった (アレルギー対応、緊急連絡体制等)	○
⑤予算の確保につながった (受入側による負担、国等の事業の紹介等)	○
⑥金銭面での負担軽減につながった (受入手配に係る見積等)	○
⑦保護者の理解促進につながった (パンフレット・資料等の提供、説明会での解説等)	○
⑧指導実施につながった (体験指導者、農林漁家泊先の手配等)	○
⑨教育的効果の発現につながった (活動内容の提案・調整・手配・指導等)	○
⑩特にない	
⑪その他 (自由回答覧)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・受入側が大変協力的かつ的確な対応を取ってくれている。</li> <li>・市の方針により個人負担が食費のみで今後も継続が確実に見込まれ、学校経営方針の継続にもつながる。</li> </ul>	

#### IV. 修学旅行(卒業後にはできない団体生活、震災学習、農家生活)

本活動の実践校名	神奈川県立座間総合高等学校 (神奈川県座間市)	全生徒数 752 名 (共学・単位制総合学科)
----------	-------------------------	----------------------------

##### 1. 本活動の日程・対象・目的

日程	平成 28 年 9 月 27 日 (火) ~ 10 月 1 日 (土) 4 泊 5 日	参加対象	2 年生・229 名
行程	1 日目	本校→J R 東京駅→岩手県・安比高原 (体験学習) →ホテル (宿泊)	
	2 日目	ホテル→震災学習 (震災列車・田野畑村被災地ガイド) →ホテル (宿泊)	
	3 日目	海体験 (岩手県田野畑村) →入村式 (青森県) →各農家 (宿泊)	
	4 日目	各農泊先での農業体験 (青森県) →各農家 (宿泊・3 日目と同様)	
	5 日目	離村式→J R 盛岡駅→J R 東京駅→本校	
目標	卒業してからではできない、団体行動による共同体験を通して社会性やコミュニケーション能力を養う。		
	民泊や体験を通して現地の人とのふれあいを肌で感じることで、社会に視野を広げ自己のキャリア形成につなげる。		
	被災地の現状を肌で感じることで、防災や復興、そこで生きる現地の人について学ぶ機会とする。		
経緯	20 年前から同じ地域 (青森県) で体験学習を続けており、本校の伝統になっている。 ※近隣校はほとんどが 3 泊 4 日 (主に沖縄方面) である。		
	入学時に生徒、保護者の理解を得るために本活動について説明している。		
	本校では本活動をきっかけにして、受入地と継続的につながっている。 ・本校の学校行事 (文化祭での物品販売など) に現地から参加いただいている。 ・卒業後、現地とつながりのある職業に就職する生徒もいた。		

##### 2. 本活動の宿泊形態と選択理由 (教育的なねらい)

	宿泊形態	選択理由
1 日目	ホテル	安比高原でのスポーツ体験や星を見る体験を実施するのに条件が良い。
2 日目	ホテル	被災したホテルで宿泊する事で、震災の被害を肌で感じる。
3 日目	農家(分散泊)	4 名程度のグループで農林漁家に分宿する事で現地の方との交流をする。
4 日目	農家(分散泊)	同上

##### 3. 事前・事後の学習活動の概要

	学習活動名	教育的なねらい	教科等名	時間
事前学習	・ビデオの視聴 (現地や東日本大震災に係る内容) ・生徒による実行委員会活動 ・現地民家への挨拶状の送付等	事前の現地の情報や震災について学ぶことで意識や意欲を高める。	総合的な学習の時間	6~8h
事後学習	・感想文を書き冊子を制作	体験振り返り、共同生活や人とのふれあい、震災や復興等について考える機会とする。	総合的な学習の時間	1~2h

4. 本活動のスケジュール（資料等に基づき記載して下さい）

時間	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
7時					
8時		①ホテル発 8:30 ②ホテル発 8:00			
9時	9:40 東京駅出発 ⇒はやぶさ号		田野畑村 ・農林業体験 ・漁業体験		離村式（民家）
10時					移動
11時	昼食（車中各自） 11:50 盛岡到着	岩手県田野畑村着 下記メニューを入れ替えて行なう。			盛岡着 ⇒盛岡市内班別 自主行動
12時	12:10 バス乗車 ⇒東北道				（昼食各自）
13時	13:20 安比高原着（岩手県） ⇒各種体験メニュー	a 被災地案内（ボランティアガイド）  b 三陸鉄道震災学習列車/北リアス線	移動		13:50 盛岡発 ⇒はやぶさ号
14時					
15時			入村式 青森県南部町、三戸町、田子町、階上町、八戸市		
16時					16:10 東京駅着
17時	ホテル集合 （安比グランドアネックス1, 2）	ホテル集合 （田野畑村/羅賀壮）	民家泊 （1軒当たり基本4名）		
18時					
19時					
20時					
21時～					
宿泊泊先	ホテル	ホテル	民家	民家	

各農家で終日農作業体験

## 5. 人的な実施体制

教員	人数	クラス数+数名
看護師・保健師	募集方法	旅行会社を通じて手配を依頼する。
	費用負担	保護者が負担する費用から支払う。

## 6. 教員の負担軽減策

①教員間の役割分担 ・負担が偏重しないようにする。 ・過去の担当者からの引き継ぎ、資料の引き継ぎを行う
②指導者・指導補助員の確保：現地の自治体（農村交流推進課）のフォローが大きい。
③本活動用の教材の活用：ビデオ等の活用
④過去の資料・データの活用：例年の実施内容を効果的に引き継ぐ。
⑤旅行会社への手配の委託：交通機関や現地調整等を委託する。

## 7. 現地コーディネーター（現地団体・宿泊体験施設等）に期待する主な役割（実施前）

①受入体制等に関する情報提供（パンフレット、CD、DVD等の媒体の提供等）
②担当教員からの相談等に随時対応できる窓口体制（コーディネーターの配置）
③現地で利用を検討している施設・サービスの経費の見積額の提示
④本活動の計画策定の協力 ・既存の体験メニューの紹介 ・学校の目的・目標に応じた体験プログラム等の提案
⑤本活動に係る現地手配（受入地域内の一括調整） ・現地の食事・宿泊の予約 ・指導者・指導補助員の紹介・確保 ・体験プログラムの手配 ・体験場所・施設・道具等の手配 ・荒天時等の代替活動の用意 ・地域内移動手段の紹介・手配 ・現地の安全・衛生管理体制の構築 ・急病人や災害等の発生時に対応できる現地の関係機関等による緊急連絡体制の構築
⑥下見の協力（現地調査時の案内等）
⑦生徒の健康・身体面の配慮 ・現地の指導者等が各生徒の特性に配慮できるように調整すること
⑧発達障害、不登校、引きこもりなどの様々な困難を抱える生徒への配慮 ・車いすの生徒への配慮
⑨事故発生時の損害賠償の責任能力（損害賠償責任保険の加入）
⑩事前学習の協力 ・地域資源等に関する情報提供（三陸鉄道の資料）
⑪本活動期間中の教員のサポート ・各活動場所までの移動・案内（班別・クラス別活動の際） ・各活動場所からの緊急連絡の対応（班別・クラス別活動の際） ・現地の指導者等への指示・伝達
⑫現地費用の一括精算（支払手数の軽減）
⑬事後学習の協力 ・受入関係者による文化祭への参加

【長期宿泊体験活動・実施後の担当教員の意見】

1. “長期の活動” だからこそ “仕組めたこと” は何ですか？

4泊だったからそのうちの2泊を民泊にして、農家のみなさんとの貴重な触れ合いの時間が持てた。4泊だったから農家体験・震災学習・自然の体験（安比でのアクティビティの体験）という豊富な体験ができた。

2. “長期の活動” だからこそ “達成できたこと” は何ですか？

（3托回答：はい、いいえ、どちらでもない）

①自主性を促せた：はい
時間的な余裕が生まれ、教師の手を離れて活動する時間（農家体験など）を多く確保することができたので、結果的に自主性を伸ばす指導ができた。
②心の成長や生徒同士の結びつきを促せた：はい
被災地の人を思いやる事や野菜などの食べ物のありがたみを知る、色々な人と触れ合って社会性を身につけるなど心の成長が促せた。農家民泊で同じメンバー（4名）で2泊することで生徒同士の結びつきは深まったと思う。民泊はホテル泊とは違ってより互いの結びつきを深められた。
③学習活動を多角的に組むことができた：はい
4泊だったから農家体験・震災学習・自然体験という豊富な体験ができた。
④ゆとりのある計画を組むことができた：はい
4泊だから1つ1つの取り組みに余裕をもって設定できた。
⑤学びの深化が図られた：はい
震災学習では事前にビデオを見せたりして学習していたが、実際に現地を見て現地の人のお話を聞くことで、学習内容を深めることが出来、生徒の心に強く残るものとなった。また、震災だけでなく直前に起こった東北地方の水害の現場を観て災害に対する意識がよりリアルになった。
⑥地域や社会との結びつきや貢献が図られた：はい
修学旅行以外にも文化祭に青森の農家の人に20年以上にわたって毎年来てもらっていて受入地域との継続的結びつきができています。生徒も、東北地方をはじめ社会で起こっている事への関心を高めることができた。
⑦教員のリフレッシュや結びつきが図られた：はい
民泊の間は教員にかなりゆとりが生まれリフレッシュや結びつきができた。
⑧その他
スケジュールに余裕が生まれ、天候等の不測の事態にも対応しやすい。

3. 受入側の対応によって本活動における課題解決に貢献しましたか？（複数回答可）

項目	回答欄
①活動準備段階での教員負担の軽減につながった（活動内容の提案・調整・手配等）	○
②活動実施段階での教員負担の軽減につながった（体験・宿泊・食事の委託等）	○
③授業時数の確保につながった（教科等に応じた活動内容の調整等）	
④安全衛生面の確保につながった（アレルギー対応、緊急連絡体制等）	
⑤予算の確保につながった（受入側による負担、国等の事業の紹介等）	
⑥金銭面での負担軽減につながった（受入手配に係る見積等）	
⑦保護者の理解促進につながった（パンフレット・資料等の提供、説明会での解説等）	
⑧指導実施につながった（体験指導者、農林漁家泊先の手配等）	○
⑨教育的効果の発現につながった（活動内容の提案・調整・手配・指導等）	○
⑩特にない	